

## 年 間 授 業 計 画

科目名	English Communication II	単位数	3 単位	学年・学科	2 学年全学科	展開	必修	・ 選択					
教科書名	Power On English Communication II (TOKYO SHOSEKI)	副教	総合英語 Evergreen (いいずな書店) 英単語ターゲット 1200 (旺文社) Hyper Listening Elementary 4th Edition (桐原書店)										
科目の目標	外国語のコミュニケーションにおける見方や考え方を学ぶと同時に、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーション能力や資質の育成を目指す。												
学習内容と進め方	教科書や副教材、ハンドアウトを利用し、各領域を統合的に伸ばすような様々な学習活動を取り入れる。												
学習の留意点	ペアワークやグループワークを多く取り入れコミュニケーションを図る時間を確保する。												
月	単 元	予定時数	具体的な学習内容	評価の観点			評価の基準	評価方法等					
				1	2	3							
4	Lesson 1 Play Me, I'm Yours	10	関係代名詞	○	○	○	・ 日本や海外でのストリートピアノと人々や社会の関わりについて読み取ることができる。	単語テスト (通年)					
5		10	助動詞＋動詞の原形 受け身	○	○	○		ノート・ハンドアウト提出 (通年)					
6	Lesson 2 Ethical Fashion	10	SVOC (形容詞) SVOC (使役動詞・知覚動詞)	○	○	○	・ ファストファッションとエシカルファッションについて読み取り、エシカルな活動について話し合うことができる。	パフォーマンステスト① 前期中間考査					
7		11						現在完了形 過去完了形 仮定法過去	○	○	○	・ ラグビー選手のインタビューを聞いて理解することができる。	パフォーマンステスト② 前期期末考査
8		11											関係代名詞 関係代名詞の非制限用法
9	Lesson 3 One for All, All for One	11	助動詞＋受け身 SVC (分詞・if節)	○	○	○	・ ブレイルノイエの利点や可能性、活用方法について考察することができる。	パフォーマンステスト④ 後期期末考査					
10		11						関係代名詞 関係代名詞の非制限用法	○	○	○	・ ブレイルノイエの利点や可能性、活用方法について考察することができる。	パフォーマンステスト④ 後期期末考査
11		11											関係代名詞 関係代名詞の非制限用法
12	Lesson 4 Vending Machines	11	関係代名詞 関係代名詞の非制限用法	○	○	○	・ 海外の自動販売機についての英文を読みとることができる。	パフォーマンステスト③ 後期中間考査					
1		11						関係代名詞 関係代名詞の非制限用法	○	○	○	・ ブレイルノイエの利点や可能性、活用方法について考察することができる。	パフォーマンステスト④ 後期期末考査
2	Lesson 5 Design for Connecting Society: Braille Neue	10	助動詞＋受け身 SVC (分詞・if節)	○	○	○	・ ブレイルノイエの利点や可能性、活用方法について考察することができる。						パフォーマンステスト④ 後期期末考査
3		10						助動詞＋受け身 SVC (分詞・if節)	○	○	○	・ ブレイルノイエの利点や可能性、活用方法について考察することができる。	パフォーマンステスト④ 後期期末考査
評価方法	(1) 評価の観点は下記の表の通りとする。 (2) 具体的には定期考査、パフォーマンステスト・小テスト、提出物、授業への参加態度等を総合して判断する。												
評価の観点	観 点	趣 旨											
	1知識/技能	コミュニケーションⅡで学ぶ内容において、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどが理解できている。また、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。											
	2思考/判断/表現	コミュニケーションⅡで学ぶ内容において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を身につけている。											
評価基準	3主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションⅡで学ぶ内容において、背景にある文化に対する理解を深め、主体的に自立的に英語学習に取り組もうとしている。											
	1 知識・技能	A 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 B 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能を概ね身に付けている。 C 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能の習得が不十分である。											
	2 思考・判断・表現	A 目的や状況に応じて、様々な話題について、適切に表現したり伝え合ったりすることができる。 B 目的や状況に応じて、様々な話題について、適切に表現したり伝え合ったりすることが概ねできる。 C 目的や状況に応じて、様々な話題について、適切に表現したり伝え合ったりする力が不十分である。											
評価基準	3 主体的に学習に取り組む態度	A 主体的、自律的に英語学習に取り組んでいる。 B 主体的、自律的に英語学習に取り組もうとしている。 C 主体的、自律的に英語学習に取り組む意欲が不十分である。											